

大宮公園ランドデザイン検討委員会 報告書

【概要版】

1. 大宮公園ランドデザインのねらい	1
2. 大宮公園及び周辺地域の現状	2
3. 大宮公園をめぐる背景	5
4. 大宮公園ランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項	6
5. 大宮公園の将来像.....	8
6. 将来像の実現に向けた施策	9
7. 将来像のイメージ	11

大宮公園ランドデザイン検討委員会

これまでの委員会資料は全て、埼玉県の HP に掲載されています。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a1105/oomiyagd.html>

大宮公園ランドデザイン 委員長あいさつ

大宮公園は、130年を超える歴史のある公園です。1921（大正10）年には本多静六、田村剛両博士による埼玉県氷川公園改良計画が示され、昭和に入り、この計画をもとに多くの施設が整備されました。開園後の明治・大正期には、埼玉県民のみならず、広く東京やその周辺から来園者を集めるとともに、多くの文人墨客にも愛され、大宮公園を舞台とした文芸作品が数多く残されました。園内には旅館や料亭があり、その収益が公園管理に還元されるなど、公園経営という点でも先導的な公園でした。

公園は本来、都市の課題解決や魅力づくりに貢献するポテンシャルを持っており、健康・教育・自然・文化・環境・福祉・レクリエーションなど、多様な市民ニーズに対応した使い方があってよい場所です。実際に、ニューヨークやポートランドなどでは、公園や広場などのパブリックスペースをうまく活用することにより、街ににぎわいが生まれている例もあり、都市において公園は大きな意味を持つものといえます。

しかし、これまでの日本の公園は、量的拡大や公平な利用等を重視する余り、質の向上や公園の活用が十分ではなかった側面があります。大宮公園についても、氷川の杜や見沼田んぼなどに象徴されるような、地域の自然、歴史、文化、伝統を引き継ぐ場としてのポテンシャルを有するものの、樹木が鬱蒼として薄暗い印象があったり、施設の老朽化が進んだり、あるいは、競技施設がひしめきあい回遊性が悪いなどの問題があります。一方で、2017（平成29）年の都市公園法の改正では、魅力ある公園づくりのために民間の資金やノウハウを導入する仕組みが設けられるなど、新たな取組の可能性も広がっています。

大宮公園の自然、歴史、文化、伝統などのポテンシャルをいかに引き出し、未来に引き継いでいくか。周辺のまちづくりとも連携しながら、公園を核としたまちの魅力づくりを進め、「都市の公園」から、世界の人に愛される「公園都市」へといかに転換していくか。いわば、インバウンドも殺到するような世界に誇る日本の「名公園」を実現しなければならない。そのためには、社会の変化も見据えて公園の将来像を描き、その実現に向けた大局的な視点からの整備構想、すなわち、ランドデザインが必要です。

その策定作業には、多岐にわたる分野の技術や知識が求められます。今回、ランドスケープだけでなく、景観、芸術、スポーツ、メディア、神道、盆栽、観光、地域活性化、都市計画、歴史・文化など、各分野における第一線の専門家を委員にお招きし、また、地域の事情に精通した方々にも地元代表として参画いただきました。このランドデザインは、委員と地元代表の皆様から頂戴した幅広い視点からの有意義な御意見をもとに、委員会として、将来像とその実現に向けた施策をお示ししたものです。

委員、地元代表の皆様方には、検討委員会の審議に主体的に御協力いただいたことに、厚く感謝申し上げます。また、委員会運営支援を担当した事務局関係者の皆様にも感謝いたします。

これから、公園管理者の埼玉県はもとより、地元さいたま市をはじめ、氷川神社や市民・企業・団体、公園利用者の皆様には、世界にはばたく輝かしい“大宮ランドパーク”の実現に向けて、その主役は自分たちだとの自覚のもと、新生大宮公園づくりに積極的に参画していただきたく、心からお願い申し上げます。

平成31年3月

大宮公園ランドデザイン検討委員会

委員長 進士 五十八

大宮公園ランドデザイン検討委員会 委員名簿

【検討委員会委員】（五十音順）

氏名	所属等（平成31年3月現在）	専門分野
進士 五十八	福井県立大学 学長 東京農業大学名誉教授	ランドスケープ計画・公園史
今井 良治	株式会社 アイマックス 代表取締役	地域活性化
榊原 八朗	ランドスケープデザイン塾	ランドスケープデザイン
沢登 次彦	(株)リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター センター長	観光
建畠 哲	埼玉県立近代美術館 館長 (多摩美術大学 学長)	芸術
為末 大	一般社団法人アスリートソサエティ 代表理事	スポーツ
近田 玲子	株式会社 近田玲子デザイン事務所 代表取締役	照明デザイン
東角井 真臣	武蔵一宮氷川神社 権宮司	神事
堀尾 正明	株式会社 ノット・コミュニケーションズ	メディア
松本 邦義	一般社団法人埼玉県物産観光協会 会長	観光
望月 健介	さいたま市 都市局長	行政（まちづくり）
山田 香織	盆栽 清香園 5代目家元	盆栽・日本文化

【地元代表】

氏名	所属等（平成31年3月現在）	専門分野
鈴木 茂	公益財団法人埼玉県サッカー協会 会長 公益財団法人さいたま市公園緑地協会 理事長	スポーツ
宮瀧 交二	大東文化大学文学部 教授	歴史・文化

大宮公園ランドデザインの目次

1.大宮公園ランドデザインのねらい

- 1.1 背景と目的
- 1.2 検討の対象範囲

2.大宮公園及び周辺地域の現状

- 2.1 大宮公園の概要
- 2.2 地形特性
- 2.3 利用状況
- 2.4 大宮公園の歴史
- 2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

3.大宮公園をめぐる背景

- 3.1 社会動向
- 3.2 主な関連計画
- 3.3 大宮公園へのニーズ

4.大宮公園ランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項

- 4.1 5つの要素（大宮公園の特性）
- 4.2 2つの視点と5つの方向性

5.大宮公園の将来像

6.将来像の実現に向けた施策

- 6.1 施策
- 6.2 施策の実施ステップ

7.将来像のイメージ

- 7.1 将来像のイメージ
- 7.2 将来像の実現ステップ
- 7.3 ゾーンごとの施策
- 7.4 イメージスケッチ

1. 大宮公園グランドデザインのねらい

1.1 背景と目的

(1) 背景

大宮公園は、1873（明治6）年の太政官布達を受け、1885（明治18）年に開設された、埼玉県初の県営公園である。氷川神社の境内地の一部を国有化し、公園として開園して以来、130年を超える歴史を有する。時代の要請に応じて整備・拡張が続けられ、行楽地や桜の名所、スポーツ・レクリエーションの拠点などの役割を果たしてきた。特に、1921（大正10）年に、日本の「公園の父」と称される本多静六博士と、田村剛博士が策定した「埼玉県氷川公園改良計画」では、桜の植栽や公園の拡張、舟遊池、運動場等を整備する計画が提案され、公園の整備・拡張が進められた。現在においても、自然景観の保全や経済振興を図ろうとしたその理念と、公園の骨格が引き継がれている。

昭和期になって本格的な公園整備が進められ、野球場、陸上競技場兼双輪場等が建設された。戦後になると、プールや体育館、サッカー場などのスポーツ施設が整備されるとともに、第二公園、第三公園が整備され、現在は約68haが供用されている。現在、年間約200万人の来訪者を集め、本多静六博士が構想したスポーツの殿堂とアカマツや桜の公園として、広く県民に親しまれている。その一方、3つの運動施設が立ち並んでいることによる回遊性の阻害や、体育館や水泳競技場等の施設の老朽化、桜の木の衰弱、樹木が鬱蒼と茂ることによる開放感の低下など、様々な課題を抱え、その対応が求められている。

一方、社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、新たな時代の都市公園には、その多機能性を最大限発揮し、都市の課題解決や魅力づくりに貢献していくことが求められている。都市公園制度の改正など公園緑地行政を取り巻く動向も変化する中、大宮公園は埼玉県を代表する公園として、新たな時代にふさわしい公園のあり方を先導していく役割が求められている。また、大宮駅を中心とした新たなまちづくりが進む中、それらの動きと一体となり、地域の魅力づくりに貢献していくことが求められている。

(2) 目的

以上の背景を踏まえ、本グランドデザインは、大宮公園の価値を将来に引き継いでいくため、公園のこれまでの歴史を振り返りつつ、県民の意見も踏まえ、長期的な視点から公園の目指すべき将来像や、土地利用の方向性を示すゾーニングを明らかにするとともに、公園の再整備に向けた基本的な考え方を示すことを目的とする。

なお、将来像の実現に向けた具体的な手法や施設計画、スケジュール等は、今後、それぞれの取組を進める中で検討していく。

1.2 検討の対象範囲

公園内の整備については、現在の都市計画で公園と定められた区域を検討の対象範囲とする。

また、まちづくりや周辺地域との連携を図る視点から、南北はさいたま新都心から大宮盆栽村、東西は見沼田んぼから大宮駅までの範囲も考慮する。

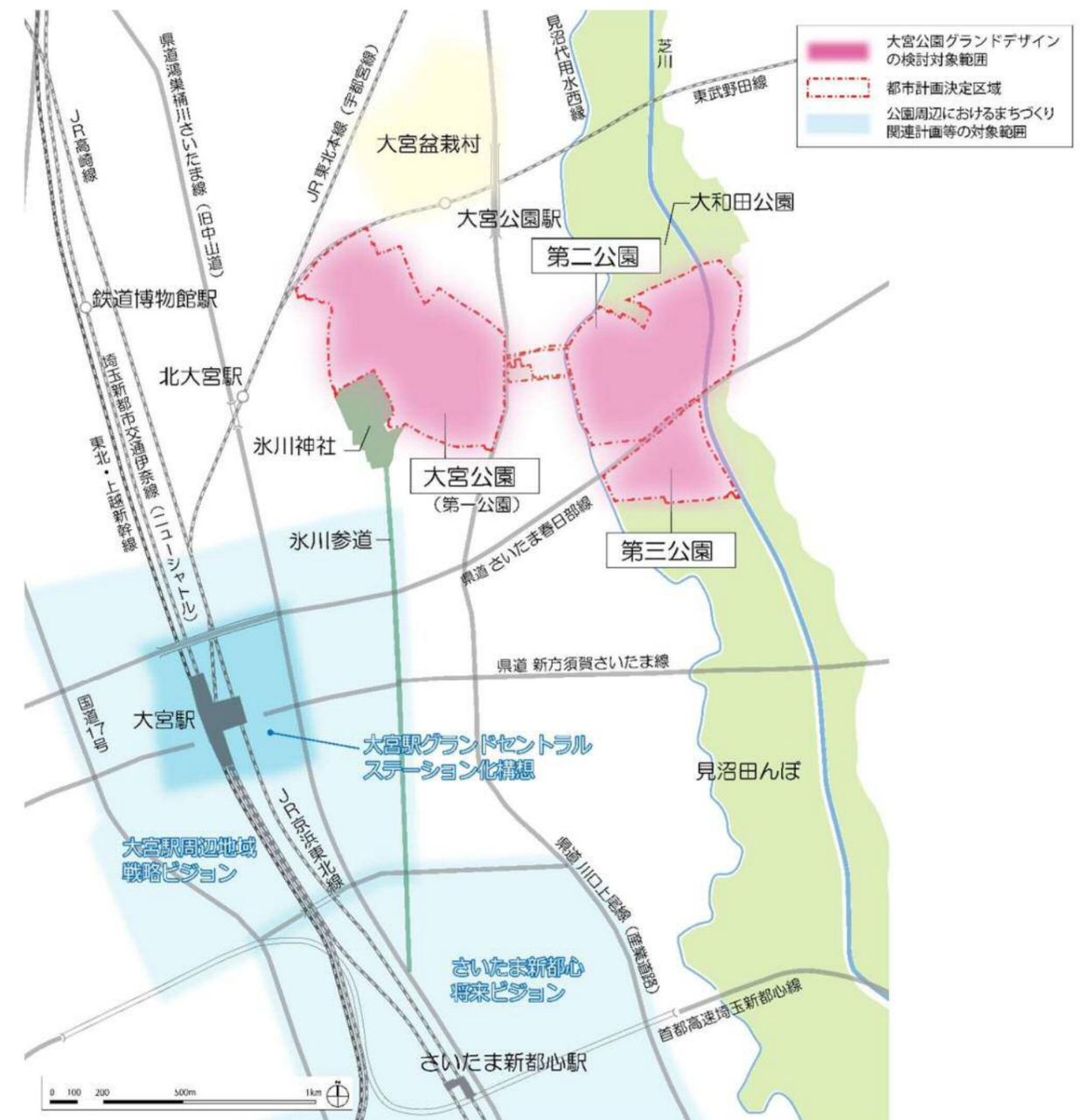


図 1-1 大宮公園グランドデザインの検討対象範囲

2. 大宮公園及び周辺地域の現状

2.1 大宮公園の概要

「大宮公園」は大宮駅から東北の方向へ約 1.5~2.0km に位置する。氷川神社に隣接する第一公園、第二公園及び第三公園からなる。大宮公園の都市計画決定区域は 73.4ha であり、現在の整備済み面積は、第一公園が 34.6ha、第二公園が 23.4ha、第三公園が 9.8ha の合計 67.8ha である。

第一公園には、氷川の鎮守の森や、アカマツとソメイヨシノなどが混在する樹林が広がる自由広場がある。また、サッカー場（NACK5 スタジアム大宮）、野球場、陸上競技場兼双輪場など競技施設が全体の面積の約 4 割を占めている。

第二公園には、多目的広場やひょうたん池（調節池）を中心とする広々とした広場や梅林、アジサイ園、菖蒲田など四季折々の花の観賞スポット、テニスコートや軟式野球場等の施設がある。

第三公園には、芝生広場やジョギングコースを有する広場園路があるほか、見沼たんぼの現風景を生かした湿地（みぬまの沼）や、池畔の野鳥観察小屋がある。



図 2-1 大宮公園の施設概要

2.2 地形特性

氷川神社及び大宮公園が位置する地域は、大宮台地上の鼻のように高く突き出た位置にあるため、一体の地名は「高鼻町」と呼ばれる。台地と平地の境界部では湧水がみられ、現在でも氷川神社の「蛇の池」などでは湧水が確認される。

大宮台地は、比較的海拔高度が高く起伏の少ない平坦面で、関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われている。関東ローム層は、上部のローム土（赤土）と下部の凝灰質粘土に大別され、ローム土は安定しており比較的大きな強度がある。

土地条件図によれば、大宮公園は段丘および切土地、埋立地に立地している。第二公園、第三公園は、見沼たんぼを埋め立て整備した経緯から、氾濫平野と埋立地からなる。

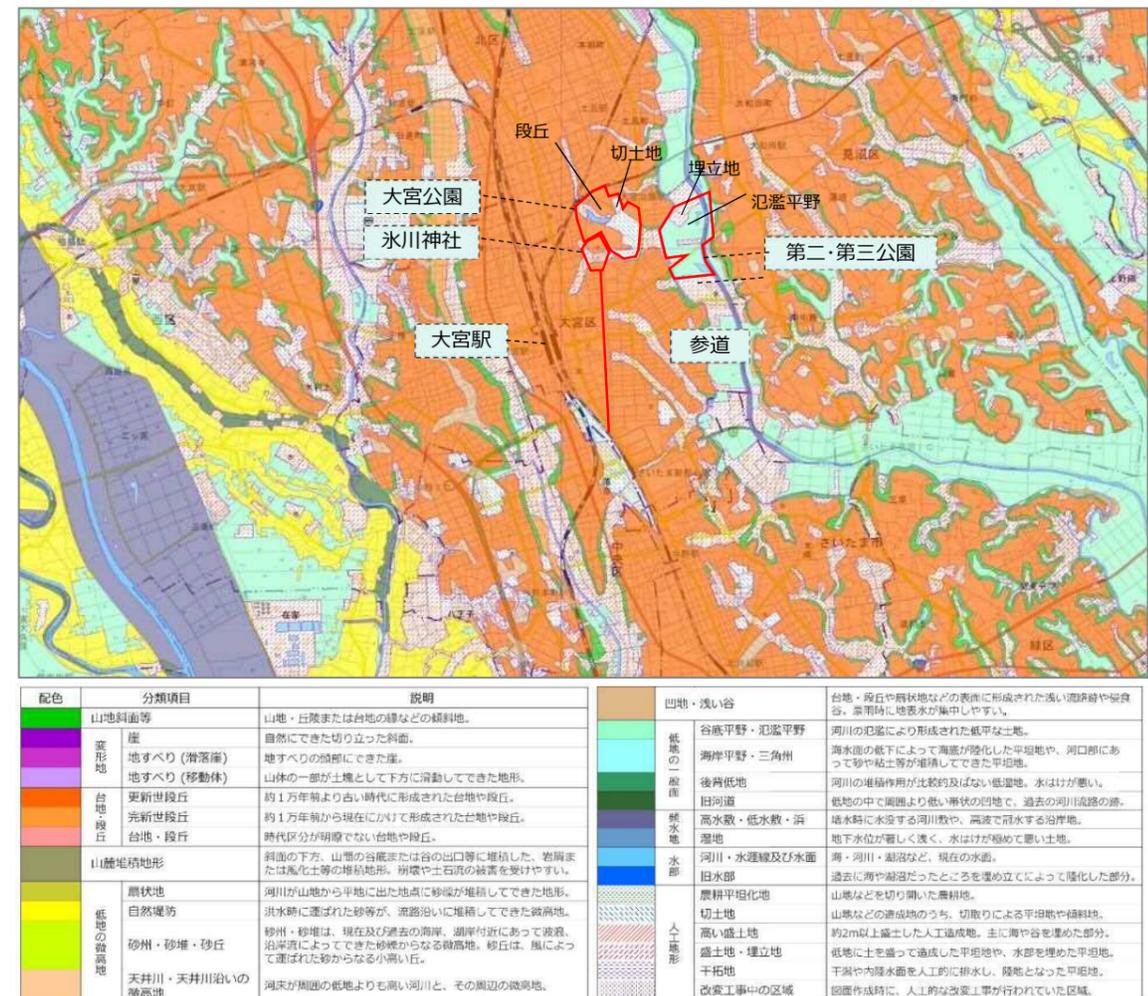


図 2-2 大宮公園周辺の土地条件

(出典：国土地理院「数値地図 25000 (土地条件)」(2011 (平成 23) 年調査) (加筆))

2.3 利用状況

大宮公園全体の年間来園者数は約 200 万人（利用者数をカウントした施設、イベント時の合計）である。桜の花見の時期や梅まつりにはそれぞれ 10 万人以上が訪れている。施設ごとでは、双輪場や野球場、サッカー場（NACK5 スタジアム大宮）といったスポーツ施設に多くの観客が訪れているほか、小動物園や歴史と民俗の博物館等の施設において利用者数が多い。

表 2-1 主な施設や時期の利用者数（2016（平成 28）年度）

公園	施設	年間利用者数	稼働期間	
第一公園	硬式野球場	19.7 万人	4～11 月	
	双輪場	競輪利用	41.4 万人	通年
		アマチュア等	0.4 万人	
	水泳場	1.3 万人	6～9 月	
	体育館	2.6 万人	通年	
	弓道場	2.5 万人	通年	
	小動物園	29.9 万人	通年	
	児童遊園地（飛行塔）	4.0 万人	通年	
	歴史と民俗の博物館	13.8 万人	通年	
	サッカー場（NACK5 スタジアム大宮）	Jリーグ	21.5 万人	-
		その他	6.1 万人	
観桜期	13.3 万人	3～4 月		
第二公園	テニスコート	11.9 万人	通年	
	軟式野球場	1.2 万人	3～11 月	
	梅まつり、陶器市	10.6 万人	2～3 月	

出典：埼玉県公園スタジアム課・さいたま市都市公園課資料

2.4 大宮公園の歴史

大宮公園は、1885（明治 18）年の開園以来、時代の要請に応え整備・拡張が行われ、現在に至る。その整備の変遷や主な出来事について以下に記す。

表 2-2 大宮公園の歴史年表

年号	主な出来事
明治 6 年	太政官布達第 16 号（公園候補地の選定）
明治 18 年	大宮公園開園（当時の名称は氷川公園）
	日本鉄道大宮駅開業
大正 10 年	本多静六、田村剛による埼玉県氷川公園改良計画
昭和 3 年	埼玉県氷川公園改良計画を受け、本格的に工事着手
昭和 8 年	児童遊園地開設
昭和 9 年	野球場完成
	日米親善野球（ベース・ルース、ルー・ゲーリッグらがホームランを放った記録が残る） 埼玉県招魂社創祀（のちに埼玉縣護國神社へ改称）
昭和 10 年	舟遊池完成
昭和 15 年	陸上競技場兼双輪場完成
昭和 23 年	大宮公園に改称
昭和 24 年	第一回大宮競輪開催（東日本初）
昭和 25 年	児童遊園地に飛行塔設置（長岡市博覧会から移転）
昭和 27 年	プール完成、体育館完成
昭和 28 年	小動物園開園
昭和 30 年	弓道場完成
昭和 35 年	サッカー場完成
昭和 46 年	埼玉百年の森、県立博物館完成
昭和 47 年	新体育館完成
昭和 55 年	弓道場改築
	第二公園供用開始
昭和 58 年	プール改築
昭和 62 年	グリーンハーモニーさいたま'87（第 5 回全国都市緑化フェア）の開催（第二公園）
平成元年	日本の都市公園 100 選に選定
平成 2 年	さくらの名所 100 選に選定
平成 4 年	新野球場完成
平成 5 年	日本庭園完成（料亭石州楼跡）
平成 13 年	第三公園供用開始
平成 19 年	NACK5 スタジアム大宮完成

2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

大宮公園周辺の多様な地域資源のうち、地域を特徴づける主要なものについて以下に概要を整理した。

「東日本の玄関口」としての大宮駅

大宮駅は東日本エリアへのハブ拠点であり、乗車人員数は 25.5 万人/日で全国 8 位である（2017（平成 29）年度統計：JR 東日本）。

関東 11 都県をめぐる広域観光ルートの重要な結節点にもなっている（広域観光周遊ルート形成計画：観光庁）。

2018（平成 30）年に策定された「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」に基づき、今後、大宮駅の駅前広場を中心とした交通基盤整備、駅前広場に隣接する街区のまちづくり、乗換改善等の駅機能の高度化など、「東日本の玄関口」としての地位確立に向けた取組が進められている。

大宮アルディージャによるまちのにぎわい

大宮公園内の NACK5 スタジアム大宮は大宮アルディージャのホームスタジアムであり、年間約 22 万人がサッカー観戦に訪れており、一定の経済効果をもたらしている。

また、大宮駅から NACK5 スタジアム大宮に向かう一宮通りにおいては、歩きたくなる通りづくり、一体感とにぎわいのある商店街づくりなど、様々な団体、企業、行政の協働のもと、地域資源を生かした活動が行われている。

見沼たんぼ

見沼たんぼは、東京都心から 20～30km 圏内に位置し、約 1,260ha の広大な面積を持つ、首都近郊における貴重な緑地空間である。

見沼代用水の西縁・東縁には、総延長 20km を超える「日本一」の桜回廊があり、花見やウォーキングなどの場として親しまれている。

また、市民が野菜づくりを楽しめる市民農園、収穫体験ができる県民ふれあい農園などがあり、都市部では貴重な「農」を体験できる場となっている。

この他、「見沼・さぎ山交流ひろば」をはじめとする公園でイベント等が開催され、交流やコミュニティづくりの場となっている。

日本の歴史・文化を伝える観光資源

大宮公園周辺には、約 2,000 年の歴史を有するとされる氷川神社、延長 2km の長さを誇る氷川参道、盆栽の聖地として国内外から多くの愛好家が訪れる大宮盆栽村、日本の鉄道史を伝える 41 両の実物車両が展示されている鉄道博物館といった観光資源が点在している。

埼玉県立歴史と民俗の博物館を中心とした半径 1 km の範囲に 9 つの施設[※]が位置することから「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」と称し、各施設が相互に連携し、地域活性化や情報発信力強化を図り、ルートマップ付ガイドブックの作成や、スタンプラリーの実施、地域の魅力を再発見する連続講座などが実施されている。

※「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」施設

東武鉄道 大宮公園駅	大宮公園
大宮盆栽村	武蔵一宮氷川神社
さいたま市立漫画会館	NACK5 スタジアム大宮
さいたま市大宮盆栽美術館	さいたま市立博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館	

氷川神社を中心とした祭典・イベント

氷川神社では年中行事として、毎朝の日供祭、月毎の月次祭など、年間 60 以上の祭典が行われ、多くの参拝客が訪れる。特に、正月三が日は 200 万人を超える人出がある。

また、関東一円の氷川神社の総本社、武蔵一宮氷川神社の例祭とそれに合わせた「中山道まつり」、市民が主体となった「大宮フリーマーケット」など、地域のにぎわいづくりに向けたイベントが開催されている。

3. 大宮公園をめぐる背景

3.1 社会動向

●公園緑地政策の動向

- ◇ 人口減少や少子高齢化、財政面の制約の深刻化などを背景として、都市全体が様々な課題に直面する中、新たな時代の都市公園には、その多機能性を最大限発揮し、都市の課題解決や魅力づくりに貢献していくことが求められている。
- ◇ 新たな時代の緑の政策展開として、緑とオープンスペースによる都市のリノベーション、より柔軟に都市公園を使いこなすプランニングとマネジメントの強化、民との連携などが、これまで以上に重視されている。
- ◇ 都市公園制度の改正により、都市公園の再生・活性化に向けて、民間活力による新たな都市公園の整備手法が創設された。

●公園周辺のまちづくりの動向

- ◇ 大宮駅は、北陸新幹線や北海道新幹線の開業により、交通結節点としての存在感がますます高まっており、駅周辺では都市計画道路の整備や公共施設の再編、市街地再開発事業などを契機として、市民、行政、企業、教育・研究機関など多様な主体の連携によるまちづくりの機運が高まっている。
- ◇ 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、国内外から訪れる人々へのおもてなしの取組が進められており、公園においても、誰もが快適に利用できる環境づくりが求められている。

3.3 大宮公園へのニーズ

●地域の声（大宮公園魅力アップ協議会からの主な意見）

- ◇ 桜の老木への対応・計画的な樹木管理（間伐や植替え）が必要。
- ◇ 赤松や桜がつくる風景や、日本の景観を継承したい。
- ◇ 「氷川公園」から続く歴史や、明治・大正期のリゾート地であり多くの文豪に愛された歴史などを大切にしたい。
- ◇ 周辺施設と一体となったデザインや動線の連続性の確保が必要。
- ◇ 舟遊池のポートを復活させたい。
- ◇ 周辺の観光資源も含めた、エリア内回遊性向上が必要。等

●利用者のニーズ （公園利用者調査における意見）

- ◇ 公園に欲しいものとして、「このままでよい」が最も多いが、次いでカフェ（飲食店等）やコンビニなどの売店を求める声が多い。
- ◇ これからの大宮公園に期待すること・改善してほしいこととして、トイレや駐車場の改善を求める声が多い。

3.2 主な関連計画

●見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針（H7） 【埼玉県】

見沼たんぼについて、その保全・活用・創造を図るため、行政の果たすべき役割を明示するとともに、土地利用の基準を定めている。

●首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン（H16） 【自然環境の総点検等に関する協議会】

見沼たんぼは、首都圏に残されたまとまりのある貴重な自然環境（保全すべき自然環境）として位置づけられ、将来にわたって首都圏の水と緑のネットワークの中核となることが求められている。

●さいたま市緑の基本計画（H19）【さいたま市】

大宮公園は、大宮盆栽村や氷川神社周辺とともに「緑のシンボル核」に位置づけられ、歴史・文化資源と新しい都市空間の様々な緑の融合や、さいたま市の顔となる緑の創出が求められている。

第二公園、第三公園は、さいたま市の緑の大きな骨格を形成し、首都圏の広域的な環境保全を担う「見沼田圃シンボル軸」の一部に位置づけられ、既存の公園緑地の一層の充実が求められている。

●さいたま市都市景観形成基本計画（H19）【さいたま市】

氷川神社、氷川参道一体は「歴史文化景観拠点」に位置づけられ、「氷川神社、氷川参道のみどりと歴史文化資源を守り、生かす景観づくり」が求められている。

「見沼田圃景観軸」では、「見沼田圃の広がりを守り、生かす景観づくり」が求められている。

●大宮駅周辺地域戦略ビジョン（H22）【さいたま市】

「氷川の杜、継ぐまち」の実現に向け、氷川の杜や見沼田圃の生態系の保全・回復が求められている。

氷川参道や大宮公園、見沼田圃などの資源と連携し、その魅力や価値を享受した地域文化を継承しつつ、新たなライフスタイルを創造することで、豊かな都市生活を営める地域の形成が求められている。

●さいたま市見沼田圃基本計画（H23）【さいたま市】

第二公園、第三公園は、防災機能の充実や、斜面林、芝川、公園等の連続性の確保が求められている。
大宮公園全体として、環境整備により生態系を拡大する方針が示されている。

●さいたま市総合振興計画（H26）【さいたま市】

大宮区の将来像として「うるおいのある高度な生活基盤と氷川の緑と文化が調和するまち」が位置づけられ、「氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など地域固有の資源を活用した個性ある地域文化の創造と発信」、「氷川の杜や見沼田圃の自然の保全・憩いの場としての活用」などが求められている。

●さいたま市都市計画マスタープラン（H17 策定、H26 改定）【さいたま市】

「みどりのシンボル核」では、みどりの拠点を結ぶ回遊ルート整備や一体的な緑化の推進により、さいたま市を代表し、魅力を創出するみどり空間の形成が求められている。

●さいたま市観光振興ビジョン（H19 策定、H26 改定）【さいたま市】

さいたま市の観光の課題として「観光資源の連携」が挙げられ、市内での滞留時間を延ばし、経済効果につなげていくためにも、観光資源の連携を図り、回遊性を促進することが重要とされている。また、連携させることで相乗効果が期待できる資源として、大宮盆栽村、大宮盆栽美術館、漫画会館、武蔵一宮氷川神社、大宮公園、歴史と民俗の博物館等が示されている。

●首都圏広域地方計画（H28）【国土交通省】

大宮は、東日本からの多種多様なヒト、モノが実際に集結して交流する東の玄関口となる交通結節点として、連携・交流機能の集積・強化を図るとともに、首都直下地震の発災時における首都圏のバックアップ拠点としての強化を図ることが位置づけられている。

●大宮駅グランドセントラルステーション化構想（H30） 【さいたま市】

大宮駅周辺の都市機能の考え方として、「東日本の対流拠点に相応しく、氷川の杜、見沼たんぼ等の豊かな自然環境が感じられ、風格と品格を備えた景観形成」が位置づけられている。

まちづくり、景観、環境、観光、防災など多くの分野において、豊かな緑やオープンスペースを有する大宮公園の果たす役割が期待されている。

4. 大宮公園ランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項

4.1 5つの要素（大宮公園の特性）

大宮公園の特性として、「緑地・空間」、「歴史・文化・芸術」、「水系」、「スポーツ・レクリエーション」、「にぎわい・交流」の5つの要素を整理した。

緑地・空間

● 広域的な環境を支えるみどり

- ◇ 68ha の広大なオープンスペース：中心市街地の中の貴重なみどりであり、ヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善に貢献
- ◇ 首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間である見沼田んぼ：遊水地としての機能や広域・都市レベルの骨格を形成

● 生き物の生息・生育空間

- ◇ 樹林地や草地、湿地など多様な環境：都市の生物多様性を支える重要な役割

● 地域のアイデンティティを育む景観形成

- ◇ 氷川神社と一体となった社叢林や樹齢 100 年を超えるアカマツ林、約 1,000 本のサクラの疎林など：歴史を象徴し風格ある景観を形成
- ◇ 「大宮二十景」（ハナミズキの並木道など大宮公園に関するスポットが7箇所選定されている）：大宮区民が愛着を感じる景観を形成

● 安全な暮らしを支える空間

- ◇ さいたま市の広域避難場所：災害時に危険から身を守る重要な役割
- ◇ 公園内の河川調節池：芝川の洪水を調節する機能を有しており、市民の安全な暮らしに貢献

歴史・文化・芸術

● 見沼の歴史

- ◇ かつて「神沼」「御沼」とも呼ばれた広大な湖沼
- ◇ 江戸を水害から守る「治水」と農業用水を確保する「利水」の歴史
- ◇ 江戸時代中期に新田開発された大規模農地

● 氷川神社の歴史

- ◇ 2000 年を超えるとされる歴史を有する
- ◇ 国内屈指の古社であり、「大いなる宮居」が大宮の地名の由来とされる
- ◇ 「水」に由来し、大宮台地端部の湧水が信仰対象

● 行楽地としての歴史

- ◇ 熱海と並ぶ東京の奥座敷として、休憩施設「含翠楼」、料亭「方松楼」「石州楼」、「遊園地ホテル」等がかつて存在
- ◇ 春の桜やワラビ狩り、夏の蛍狩り、秋の松茸狩り、冬の雪見の絶景など四季折々の風流

● 文学・芸術

- ◇ 多くの文豪たちが訪れ、作品の舞台や絵画の題材として取り上げた
- ◇ 有名な建築家、故前川國男氏が設計した「埼玉県立歴史と民俗の博物館」

水系

● 湧水がつくり出した池

- ◇ 大宮台地の縁辺部にあたり、湧水が多様な池を形成
- ◇ 大宮公園のエントランス部分にある白鳥池
- ◇ かつてボート遊びが行われていた舟遊池
- ◇ 神が宿る池とされる神池、蛇の池、御神水（氷川神社）

● 見沼につながる池沼

- ◇ 芝川の洪水の調節池として整備されたひょうたん池
- ◇ 見沼の湿地を再現したみぬまの沼

スポーツ・レクリエーション

● 歴史ある競技施設群

- ◇ 本多静六博士らの計画した大運動場のあたりに、競技施設が建設
- ◇ 日本初のサッカー専用球技場、東洋初の近代的な施設として建設された競輪場
- ◇ スポーツイベントの拠点（Jリーグ、プロ野球、高校野球、競輪の観戦に多くの人々が来園）
- ◇ テニスコートや軟式野球場、体育館等は一般市民のスポーツの場

● 健康づくり

- ◇ 周辺の芝川や見沼田んぼなども含めたウォーキングコースの一部
- ◇ 散歩やサイクリング等の場として、県民の健康づくりに寄与
- ◇ 青空ヨガ・キッズヨガなどのヨガ教室、スポーツフェスタ等のイベント

● レクリエーション

- ◇ 幅広い世代が楽しめる多種多様なレクリエーション・学びの場（ピクニックや水鳥・野鳥などの自然観察、遊園地、小動物園等）
- ◇ 花とみどりを楽しみ、体験する文化の発信拠点（七夕飾り、夏の虫観察会、ひまわり種まき大作戦など親子で楽しめる様々なイベント等）
- ◇ NPO 法人の活動により、「大宮プレーパーク」（冒険遊び場）が開かれ、子どもたちが自由に遊べる場が提供されている

にぎわい・交流

● 氷川神社

- ◇ 年間 600 万人の参拝客

● スポーツ

- ◇ Jリーグ、競輪、プロ・アマ野球の観戦客

● 季節の花の観賞・イベント

- ◇ 「桜の名所 100 選」に選定
- ◇ 第一公園の桜、見沼代用水沿い、芝川沿いの桜並木など、多くの花見客でにぎわう
- ◇ 白加賀・八重寒紅梅を中心とする約 40 品種 500 本の梅
- ◇ 梅祭りのにぎわい（陶器市やお茶会、コンサートなど様々なイベントを同時開催）
- ◇ 連絡通路のハナミズキや第二公園のアジサイ、ショウブなど四季を通じた植物の鑑賞

4.2 2つの視点と5つの方向性

(1) 視点

大宮公園グランドデザインにおいて重視すべき視点を以下に示す。

●大宮公園のポテンシャルを最大限に生かす

氷川の杜や見沼田んぼなど地域の自然、歴史、文化、伝統など、大宮公園ならではの魅力や、緑地・オープンスペースの多機能性を、市民や企業などとの連携のもと、これまで以上に発揮していく。

●新たな時代の要請に応えていく

社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、魅力あるライフスタイルの実現や、個性と活力ある都市づくりの実現など、新たな時代の要請に応えていく。

(2) 方向性

大宮公園の特性及び周辺計画との関係、大宮公園へのニーズや社会動向を踏まえ、グランドデザイン検討にあたり考慮すべき方向性を以下に示す。

氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観、歴史の継承

大宮公園には、氷川神社と一体となって風格を醸し出す社叢林、桜やアカマツの疎林、見沼田んぼに連続する景観といった、歴史的な風景が残されている。

一方、樹木が高齢化している、公園内が鬱蒼として薄暗い、池の水質が劣化しているなど、問題も生じている。

氷川の杜や見沼田んぼなど地域の自然や歴史・伝統を保全し、後世に引き継いでいくことが求められる。

魅力ある公園文化の創造

大宮公園では古くから競技施設が建設され、多様なスポーツが盛んに行われてきた。スポーツをめぐるニーズやトレンドが変化中、今後も時代の要請に応えるスポーツの場として、広くスポーツ文化を発信していくことが求められる。

また、かつての大宮公園には料亭や旅館があり、多くの文人墨客が訪れ、風流を楽しむなど、文化や芸術が育まれる場であった。近年、施設の老朽化や魅力低下など様々な課題がある中、民間活力の導入など新しい手法も取り入れ、魅力ある公園文化を創造・発信し、地域住民や来園者のライフスタイル実現の舞台となることが求められる。さらに、日本を訪れる外国人観光客が増加する中、外国人観光客にも魅力を感じてもらえる公園づくりが求められている。

みどりの機能とオープンスペースの確保

大宮公園は、市街化の進んだ都市における貴重な緑地であり、ヒートアイランド現象の緩和や生態系保全など、環境面において重要な役割を果たしている。また、災害時における避難場所や復旧の拠点となるなど、防災面での果たす役割も大きい。

また、現在の大宮公園は、第一公園、第二公園及び第三公園と区分されているが、新たな大宮公園はこれらを一体的に捉え、公園間のネットワークを強化することで、オープンスペースとしての機能を更に高めていくことが求められている。

持続可能な公園運営のしくみづくり

超少子高齢化社会に突入し、公共事業の予算や人員の確保も厳しくなる中、行政のみでの公園管理には限界がある。

こうした中、民との連携によるパークマネジメントの推進や、多様な主体が公園運営に関わるしくみをつくることにより、持続可能な公園運営を行う必要がある。

公園を核とした地域のにぎわいづくり

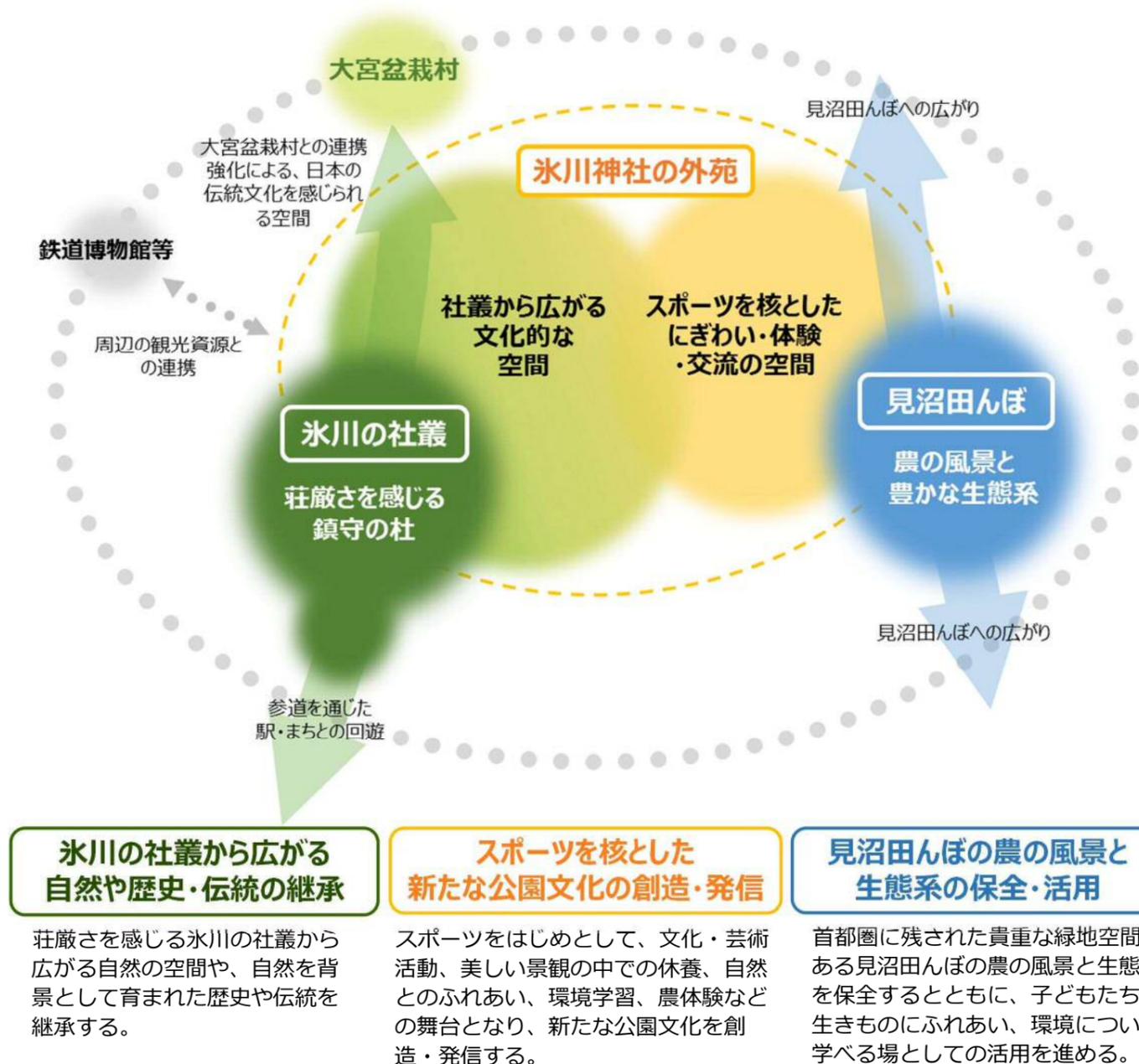
大宮公園は、東日本の玄関口たる大宮駅にほど近く、一方で周辺には閑静な住宅街も広がっている。また、大宮公園周辺には魅力的な観光資源が点在している。

このような地理的条件を踏まえ、エリアマネジメント導入など地域との連携による公園の魅力アップ、大宮駅からの回遊性向上によるまちの魅力アップ、さらには、周辺の観光資源との連携による地域の魅力アップを図り、大宮地区のにぎわいづくりに資することが求められる。

5. 大宮公園の将来像

みんなで作って育てる、氷川の杜から広がる“大宮グランドパーク”

～都市の公園から 世界の人に愛される公園都市へ～



＜将来像のイメージ＞

- 地域の緑のシンボル「氷川の杜」と「見沼田んぼ」が引き継がれるとともに、氷川神社の荘厳さや武蔵野の雑木林の面影、見沼の原風景など、地域の歴史が感じられる魅力的な公園として、国内外から多くの人々が訪れている。
- 大宮の中心部に残された貴重なオープンスペースとして、多様な機能が最大限発揮され、住民の快適で安全・安心な暮らしに役立っている。
- スポーツをはじめとして、文化・芸術活動、美しい景観の中での休養、自然とのふれあい、環境学習、農体験などの舞台となり、埼玉県全体の公園の魅力アップのけん引役として、魅力ある公園文化を発信している。また、近隣住民をはじめとする多くの人々が、暮らしの中に大宮公園を取り入れて、大宮公園があるライフスタイルを楽しんでいる。
- “大宮グランドパーク”のブランドイメージが確立されるとともに、多くの人が大宮公園に愛着を感じ、行政のみならず県民や民間事業者など多様な主体による公園運営が実践され、公園の魅力がさらに高まっている。
- 公園はまちに開かれた場となり、周辺の観光資源との連携や回遊性の向上により、公園を核としたまちのにぎわいや交流が生まれている。また、大宮公園の存在が、まちの魅力となっている。

図 5-1 大宮公園の将来像

6. 将来像の実現に向けた施策

6.1 施策

将来像の実現に向けた施策を以下に示す。

氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観・歴史の継承	みどりの機能とオープンスペースの確保	魅力ある公園文化の創造	持続可能な公園運営のしくみづくり	公園を核とした地域のにぎわいづくり
<ul style="list-style-type: none"> ● 風格ある氷川の杜の保全・育成 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成 ◇ 氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備 ● 桜の再生、保全・育成 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な密度管理による見通し・明るさの確保 ◇ 老齢木の計画的な間伐・植え替え ◇ 適切な維持管理による桜の保全・育成 ● アカマツ林の保全・育成 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成 ● 見沼田んぼに広がる空間づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 見沼田んぼの広がりを感じられる空間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 氷川の杜と見沼田んぼをつなぐ生態系ネットワークの充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 氷川の杜と見沼田んぼを結ぶ空間づくり ● 生物多様性に配慮した公園づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生き物の生息に配慮した園地整備 ● 親水空間の整備 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 池の水質改善 ◇ 水に触れ、親しむことのできる空間づくり ◇ せせらぎなど水の流れの再生 ● 四季折々の表情が楽しめる空間づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 季節を彩る樹木や花の植栽による景観づくり ◇ 開園期の武蔵野の雑木林の復元 ● 防災機能の強化 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 防災機能を有する施設の整備（屋根付き広場、大型休憩舎等） ◇ 河川調節池を活用した防災教育プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 多様な活動に対応できるスポーツの場づくり ◇ 民間の資金やノウハウを活用した運動施設の整備・運営 ◇ スポーツ・レクリエーションプログラムの実施 ● 魅力的な景観づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 舟遊池を生かした景観づくり ◇ 博物館周辺の景観づくり ◇ 視点場の確保 ● おもてなし機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇ エントランス機能の充実 ◇ 公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置 ◇ 外国人向けの日本文化体験プログラムの提供 ● サービス拠点の整備・運営 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備（飲食施設、宿泊施設等） ● 世界に誇る文化・アートの発信 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 文化・アートのイベントの開催 ◇ 文化・アートの発信拠点となる教養施設の整備 ● 一日を通じて公園を楽しめるしくみづくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ ◇ 夜を楽しむイベントの開催 ◇ 公園の朝を楽しめるプログラムの実施 ● 誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ ユニバーサルデザインの推進 ◇ 多言語に対応したガイドシステムやサインの整備 ◇ 誰もが利用しやすい安心で清潔なトイレの整備 ◇ 子どもが生き生きと遊び学べる場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● プロモーションの推進 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駅・空港等における公園のPR ◇ SNS等を活用した四季のみのところ紹介やタイムリーな情報発信 ◇ 民間と連携した大宮公園ならではの土産物などの商品づくり ● 民との連携によるパークマネジメントの推進 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民間の資金やノウハウを活用した公園施設の整備 ◇ 民との連携によるパークマネジメント手法の検討・導入 ◇ アダプトプログラム等の導入 ◇ 地域の企画・提案によるイベント等公園プログラムの運営 ◇ 多様な資金調達手法の検討・導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公園を核としたエリアマネジメントの推進 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 大宮公園周辺のまちづくりや見沼田んぼの保全の取組等と連携したエリアマネジメントの検討・導入 ◇ 多様な資金調達手法の検討・導入 ● 周辺の地域資源とネットワーク強化 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 氷川神社や周辺の商店等と連携した取組（まちバル、マルシェ、フェス等） ◇ 公園を拠点に周辺の観光スポットを結ぶ回遊ルート整備（マップ作成、サイン整備等） ◇ コミュニティサイクル等の活用など地域の回遊性向上 ◇ 周辺駅や氷川神社等から公園に人々を誘導する取組（サイン整備等）

6.2 施策の実施ステップ

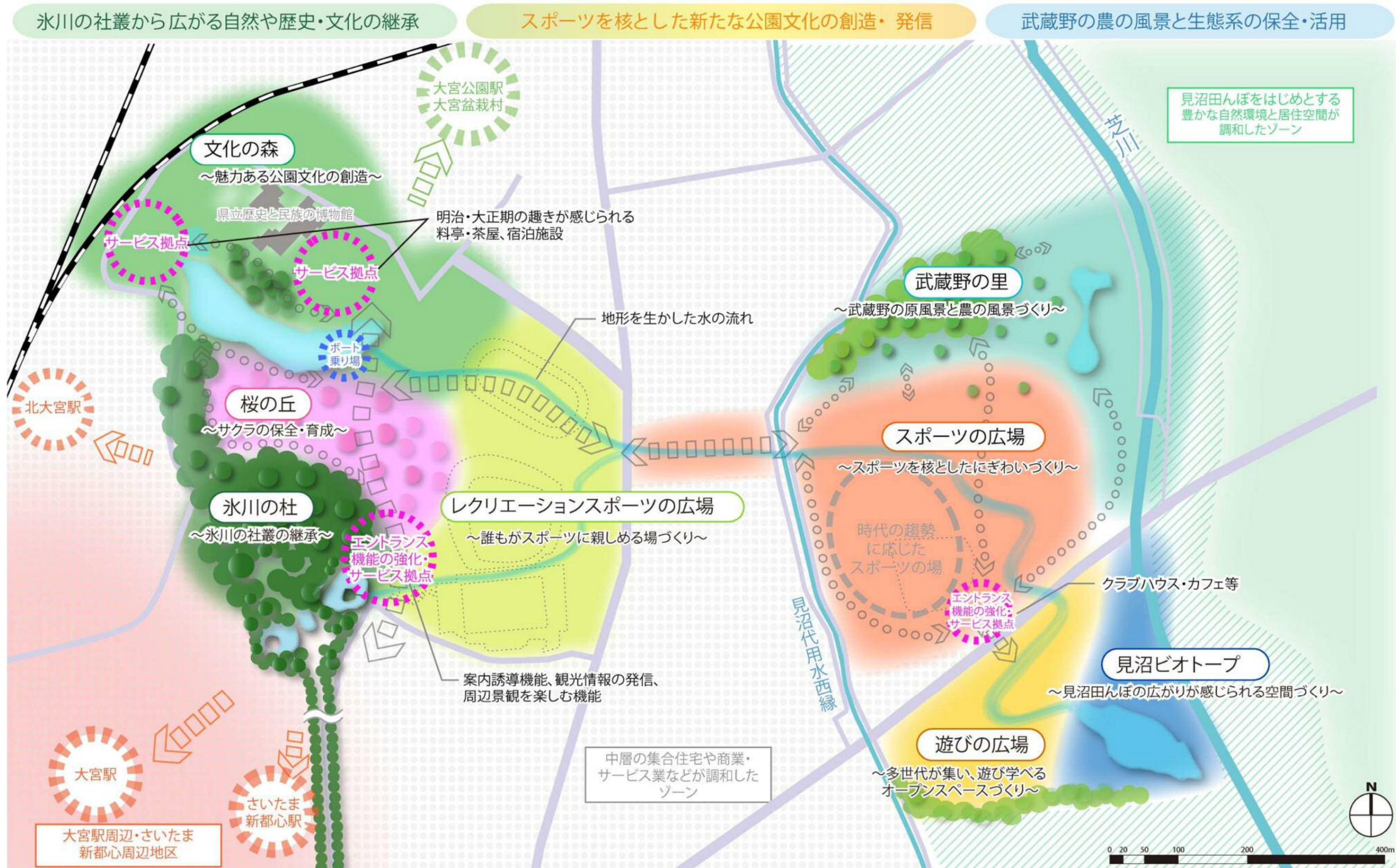
将来像の実現には長期間と予算を要する。予算制約のある中、優先順位を定めて整備を進める必要がある。将来像の実現に向けた取組について、その内容を短期、中期、長期に分類して整理したものを以下に示す。なお、将来像の実現に向けた具体的な手法や施設計画、スケジュール等は、ランドデザインでは定めず、今後、それぞれの取組を進める中で検討していく。

	短期的取組 早期に解決すべき現状の課題に対応するとともに、 中期的取組に向けた検討や準備を行う	中期的取組 将来像の実現に向けた施策を実践する	長期的取組 時代の趨勢に応じた 公園運営を継続する
ハード施策	<p>現状の課題への対応・将来像の実現に向けた下地づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 風格ある氷川の杜の保全・育成 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成 ● 桜の再生、保全・育成 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な維持管理による桜の保全・育成 ◇ 適切な密度管理による見通し・明るさの確保 ◇ 老齢木の計画的な間伐・植替え ● アカマツ林の保全・育成 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成 ● 親水空間の整備 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 公園とその周辺の水循環の把握 ◇ 池の水質改善手法の検討・実施 ● 四季折々の表情が楽しめる空間づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 季節を彩る樹木や花の植栽による景観づくり ● 魅力的な景観づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 視点場の検討 ◇ 雑草やゴミ対策 ● 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくりの検討 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民間の資金やノウハウを活用した施設整備手法の調査・研究 ◇ 実施に向けた制度づくり ◇ 運動施設の利用状況、ニーズの調査 ● おもてなし機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ◇ エントランス機能の充実にに向けた検討 ● サービス拠点の整備に向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民間の資金やノウハウを活用した施設整備手法の調査・研究 ◇ 実施に向けた制度づくり ● 誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ ユニバーサルデザインの推進 ● 既存施設の適切な維持管理と利活用の継続 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 中長期修繕計画に基づく公園施設の維持管理 ◇ 施設の劣化状況・安全性の適切な把握 	<p>将来像の実現に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 風格ある氷川の杜、サクラ、アカマツ林の保全・育成 ● 見沼田んぼに広がる空間づくり ● 氷川の杜と見沼田んぼをつなぐ生態系ネットワークの充実 ● 生物多様性に配慮した公園づくり ● 親水空間の整備 ● 四季折々の表情が楽しめる空間づくり ● 防災機能の強化 ● 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民間の資金やノウハウを活用した運動施設の整備・運営 ● 魅力的な景観づくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 舟遊池を中心とする周辺の魅力的な景観づくり ● おもてなし機能の充実 ● サービス拠点の整備・運営 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備・運営 ● 世界に誇る文化・アートの発信 ● 誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり ● 周辺の地域資源とネットワーク強化 <ul style="list-style-type: none"> ◇ サイン整備等 	<p>新たな課題への対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 景観の長期的な保全 ▶ 新技術を取り入れた維持管理の省力化・高度化 ▶ 公園周辺地域の状況や利用者ニーズの変化に対応する公園施設の整備 ▶ 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり ▶ 交通手段の変化に応じた園内移動の高度化、アクセス強化 ▶ 市民のライフスタイルの変化に応じた機能の導入
	ソフト施策	<p>試行・立ち上げ期</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民との連携によるパークマネジメントの検討 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 民の連携によるパークマネジメント手法の調査・研究 ◇ 公園運営への参画ニーズの把握 ◇ アイデアの試行（実証実験等） ◇ 多様な資金調達手法の調査・研究 ◇ 公園内におけるルールの適正化の検討 ● プロモーションの検討・試行 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 情報発信方法の検討・試行 ● 公園を核としたエリアマネジメントの検討 <ul style="list-style-type: none"> ◇ エリアマネジメントの導入可能性に関する調査・研究 ● 魅力ある公園文化の創造に向けた検討 <ul style="list-style-type: none"> ◇ 導入すべきおもてなし機能の検討 ◇ 公園で実施可能なプログラム等の検討 ◇ 文化・アートのイベントに関する調査・研究 ● 周辺の地域資源とのネットワークづくり <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駅等からのアクセス性向上に向けた取組の検討 ◇ 地域と連携した魅力アップに向けた取組の検討 ◇ 周辺の観光スポット等をめぐる回遊性向上に向けた取組の検討 	<p>実践期</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 民との連携によるパークマネジメントの実践 ● プロモーションの実践 ● 公園を核としたエリアマネジメントの実践 ● 魅力ある公園文化の創造 <ul style="list-style-type: none"> ◇ おもてなし機能の充実 ◇ 世界に誇る文化・アートの発信 ◇ 一日を通じて楽しめる公園づくりの実践 ● 周辺の地域資源とのネットワーク強化

7. 将来像のイメージ

7.1 将来像のイメージ

将来像の実現に向けたゾーニングを以下に示す。なお、本イメージは、公園内の土地利用の方向性や備えるべき主な機能の概略を示すものであり、詳細な施設の設置場所、規模、諸元、デザイン等は、今後検討していく。



7.2 将来像の実現ステップ

将来像の実現に向けては、現状の施設配置や利用ニーズを踏まえつつ、段階的に取組を進める必要がある。将来像の実現ステップを示す。

●ステップ1（短期的取組）

樹木や花の保全や育成、現況のスポーツ施設の維持管理や利活用等、現状の課題に早期に対応するとともに、将来像の実現に向けて、民間の資金やノウハウを活用した施設整備手法の調査・研究等、下地づくりに取り組む。

●ステップ2（中期的取組）

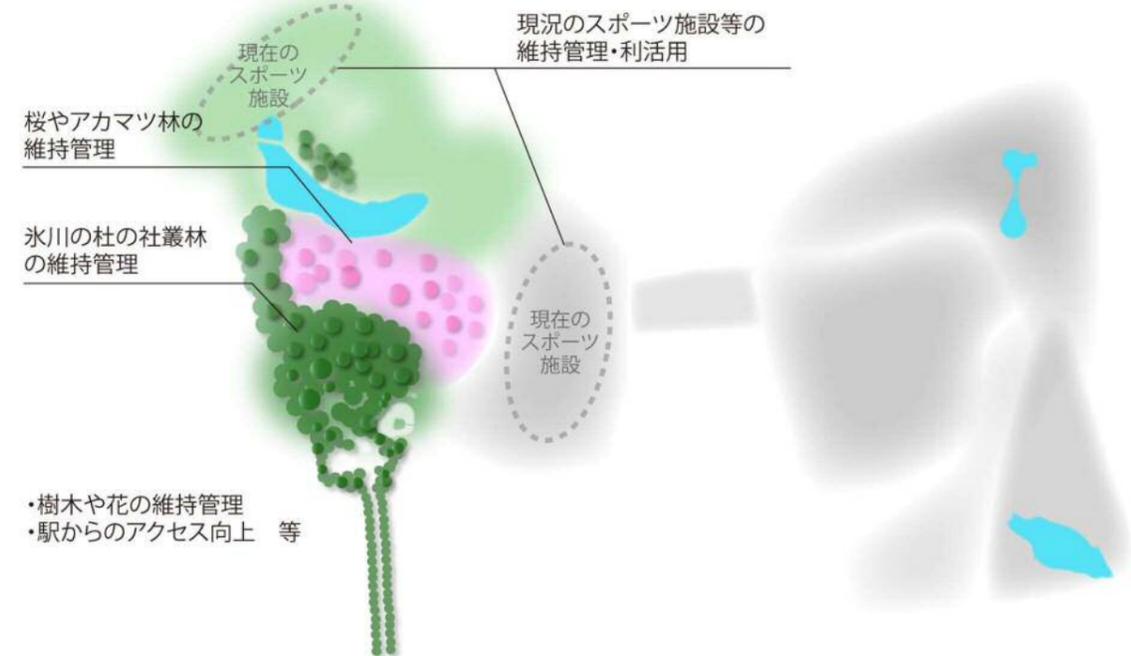
魅力的な景観づくりや親水空間の整備、サービス拠点の整備・運営、時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり等、将来像の実現に向けた施策を実践する。

●ステップ3（長期的取組）

景観の長期的な保全、時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり、市民のライフスタイルの変化に応じた機能の導入等、新たな課題への対応として、時代の趨勢に応じた公園運営を継続する。

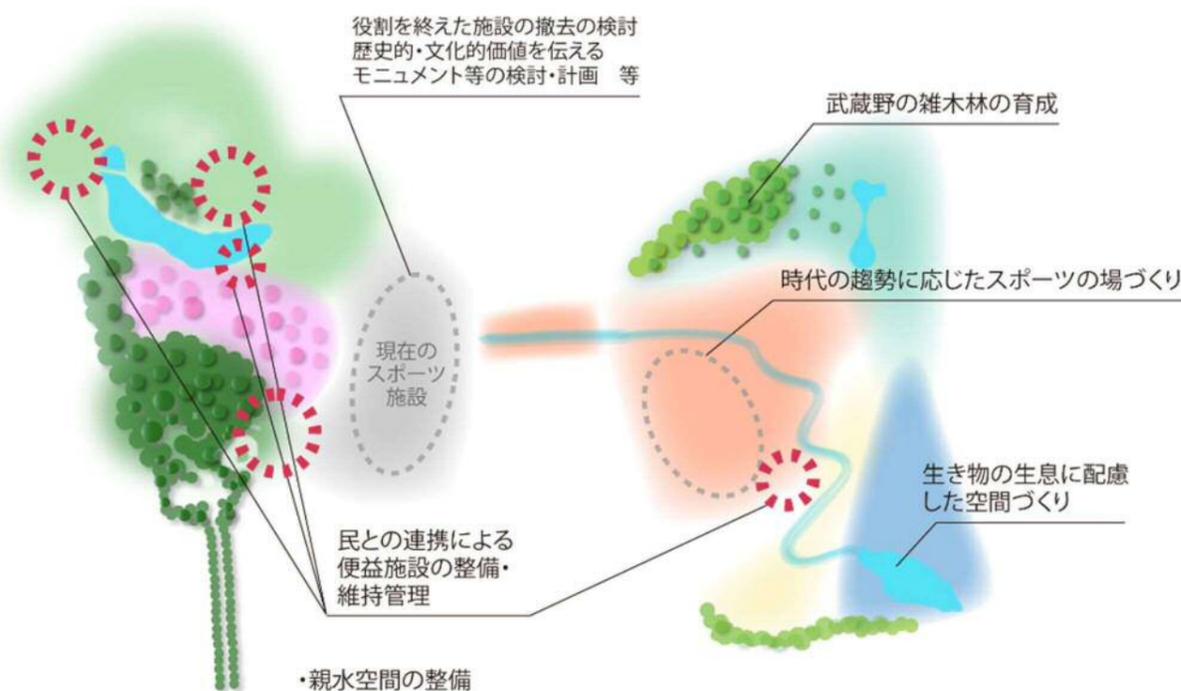
ステップ1（短期的取組）

○現在の課題への対応



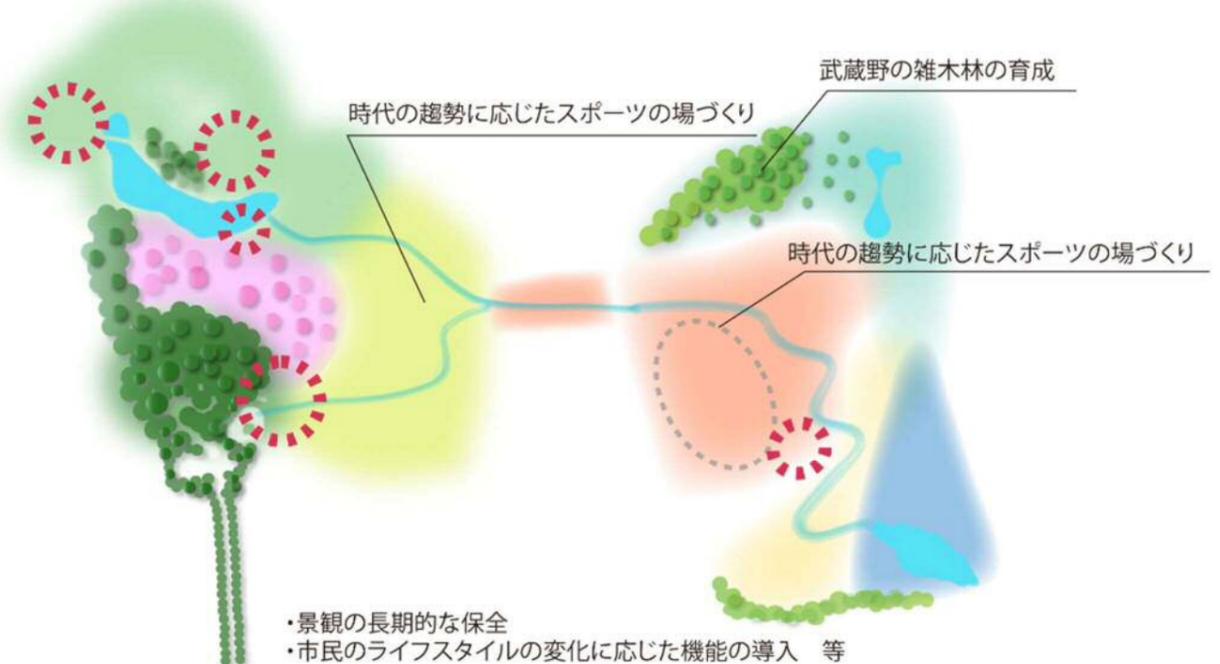
ステップ2（中期的取組）

○将来像の実現に向けた取組



ステップ3（長期的取組）

○新たな課題への対応



7.3 ゾーンごとの施策

●氷川の杜

氷川神社の社叢林の風格や荘厳さが感じられる空間をつくる。施設整備にあたっては、その外観は和のテイストとするなど周辺の景観との調和に配慮する。

<主な取組>

- ◇ 氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり
- ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- ◇ 氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備
- ◇ エントランス機能の充実
- ◇ 公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置
- ◇ 氷川神社や北大宮駅方面からの来園者を誘導する取組（サイン整備等）

●文化の森

舟遊池の水面やアカマツをはじめとする木々、博物館の建物を生かした美しい景観をつくる。ボート遊び等、舟遊池の活用を進める。また、明治・大正期に文豪たちが愛した風流や趣が感じられる飲食や宿泊等のサービスを提供する施設を整備する。また、盆栽をはじめ芸術的な要素も取り入れ、魅力ある公園文化を発信する場とする。今あるスポーツ施設や便益施設は、老朽化が進行するなど、その役割を終えた時点で撤去する。

<主な取組>

- ◇ 舟遊池を生かした景観づくり、視点場の確保
- ◇ 博物館周辺の景観づくり、視点場の確保
- ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- ◇ 親水空間の整備
- ◇ ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ
- ◇ 民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備（カフェ、レストラン、宿泊施設、貸ボート等）
- ◇ 文化・アートの拠点となる教養施設の整備
- ◇ 文化・アートのイベント誘致
- ◇ 季節感を演出する樹木や花の植栽
- ◇ 大宮公園駅方面からの来園者を誘導する取組（サイン整備等）

●桜の丘

主にサクラやアカマツを中心とする明るく快適な広場空間をつくる。動物園、遊園地、売店等の今ある施設は、老朽化が進行し、更新が必要になった時点で、撤去あるいは移転を検討する。

<主な取組>

- ◇ 樹木の適切な密度管理による見通し・明るさの確保
- ◇ 老齢木の計画的な間伐、植え替え
- ◇ 桜守ボランティアと連携した桜の維持管理
- ◇ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成
- ◇ 舟遊池を生かした景観づくり、視点場の確保
- ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- ◇ 親水空間の整備
- ◇ 氷川神社からの来園者を誘導する取組（サイン整備等）

●レクリエーションスポーツの広場

氷川の杜に隣接することから、自然や歴史、文化的な要素に配慮しつつ、多様な活動が可能で、誰もがスポーツに親しめる施設を設置する。今あるスポーツ施設は、引き続き活用するものとし、施設の老朽化が進んで安全な使用ができなくなる、利用者が減少して継続的な利用がなされなくなるなど、施設の役割を終える時点において、その後のあり方を利用者の意見を踏まえて検討し、時代の趨勢に応じたスポーツの場を整備する。また、それらスポーツ施設の歴史は、大宮公園全体の歴史においても重要であることから、その歴史的な価値を後世に伝える取組を行う。

<主な取組>

- ◇ 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり

●スポーツの広場

スポーツを通じて人々が交流し、にぎわいのあふれる空間をつくる。民間の資金やノウハウを極力活用し、スポーツ施設やサービス拠点を整備する。その機能等は、民間事業者や利用者等の意見を踏まえて検討し、時代の趨勢に応じたものとする。また、収益の一部を公園運営に還元するしくみとする。

<主な取組>

- ◇ 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり
- ◇ 民間の資金やノウハウを活用したスポーツ施設やサービス拠点（クラブハウス、カフェ等）の整備

●武蔵野の里

武蔵野の原風景を再現し、季節に応じた自然の変化や彩りを感じることでできる空間をつくる。また、里山の生活をイメージした農体験ができる場をつくる。

<主な取組>

- ◇ 武蔵野の雑木林の育成
- ◇ 季節感のある樹木や花の植栽による景観づくり
- ◇ 果樹の収穫など農体験ができるしくみづくり

●遊びの広場

幅広い世代の人々が安心して楽しめるオープンスペースと、子どもの創意工夫を引き出す遊び場をつくる。イベントやピクニック、マルシェ等のイベントを通じ、にぎわいを創出し、交流を促進する。遊戯施設や教養施設のほか、大規模災害にも対応できる休養施設を整備する。

<主な取組>

- ◇ 多様なイベントを開催できる広場の整備
- ◇ 遊戯施設、教養施設の整備
- ◇ 防災機能を有する休養施設の整備（大型休憩舎等）
- ◇ 市民団体が主体となったイベント等を開催できるしくみづくり
- ◇ レクリエーションプログラムの実施

●見沼ビオトープ

見沼の原風景を生かし、さらにその先の見沼たんぼへの広がりを感じられる空間をつくるとともに、都市部における貴重なウェットランドとして、生物多様性に配慮し、地域の生態系の保全を図る。また、県民が生き物に触れ合い、郷土の環境について学ぶことができる場とする。

<主な取組>

- ◇ 見沼たんぼの広がりが感じられる空間づくり（みぬまの沼とその周辺）
- ◇ 生態系に配慮したウェットランドの保全
- ◇ 環境学習や生きもの学習等のプログラムの実施

7.4 イメージスケッチ

○氷川の杜のイメージ

社叢林の風格が
感じられる空間



周辺の景観と
調和した施設

○文化の森の舟遊池周辺のイメージ

博物館を生かした
文化的な空間



飲食や宿泊等の
サービスの提供

ボート遊びの場と
しての池の活用

○文化の森のイメージ

明治・大正の文豪た
ちが愛した趣きを感じ
られる料亭・茶屋



アカマツの美しい
景観

舟遊池を生かした
景観

○文化の森の夜のイメージ



ライトアップ等による
夜の魅力アップ

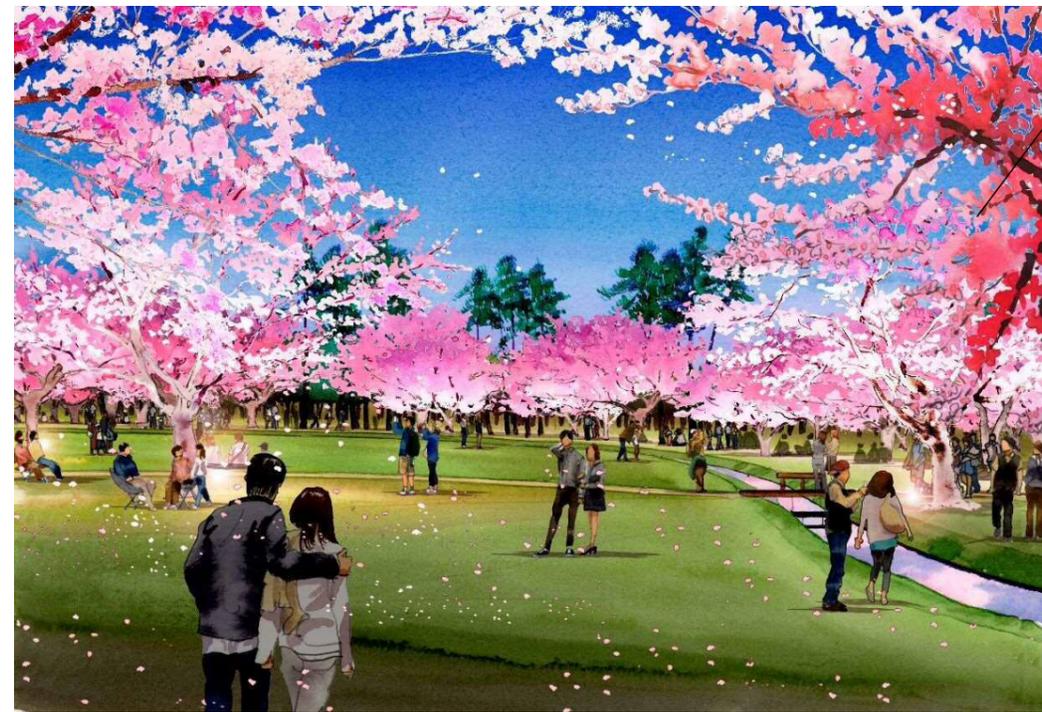
○桜の丘のイメージ



サクラやアカマツを中心とする明るく快適な広場

水に触れ、親しむことのできる空間

○桜の丘の夜のイメージ



ライトアップ等による夜の魅力アップ

○白鳥池周辺のイメージ



公園の歴史を来園者に伝えるミュージアム

水に触れ、親しむことのできる空間

○武蔵野の里のイメージ



武蔵野の雑木林

里山の生活をイメージした農体験の場

自然の変化や彩りを感じることのできる空間

○見沼ビオトープのイメージ



環境学習や生き物学習の場

見沼たんぼへの広がり
が感じられる空間

県民の生き物との
ふれあいの場

生態系に配慮した
ウェットランド

○レクリエーションスポーツの広場／スポーツの広場のイメージ



民間活力を生かしたスポーツ施設（商業的スポーツ・コンプレックス※）の整備

多様な活動が可能なオープン
スペース

※商業的スポーツ・コンプレックス

「時代の趨勢に応じたスポーツの場」を象徴する施設。スポーツ施設に加えて、クラブハウスやカフェ等の飲食施設、商業施設など、エンターテインメント・アミューズメント系の機能を兼ね備えた複合体を想定する。

整備にあたっては、民間事業者からのアイデアを公募するなど、民間の資金やノウハウを活用することを検討する。

なお、今あるスポーツ施設は、施設の老朽化が進んで安全な使用ができなくなる、利用者が減少して継続的な利用がなされなくなるなど、施設の役割を終える時点において、その後のあり方を利用者の意見を踏まえて検討し、時代の趨勢に応じたスポーツの場を整備する。